

醫
蟲
况

佐藤之助、兒玉義一、岡久年、岡野子、客

	
楊氏 二七五	孫氏 二八三 四分
(寅) 八 百廿九	社口 三月廿二日

を怠らざるは勿論、服係も前
附密に赴き糸の生管良好なる爲に
の品質優秀なる點に於て諸客と齊
地に好みありさふ是れ實業興し
同時に道徳の著する所は民中
には這伴の爲に外無きものなり
職人を爲す者少からず寫りたる
の經費之數の不齊を以て此處
以外に命じ個人販賣及種精
買製を抑制せしめつゝあり公明

●慶北 雲葉の開陳上慶北の
地方は夏草の緑し早稲二種の秋作
を可算する例なしなり若るは米
生立一畝数は一萬三千石にし全
十内地種田間なり 早稲は七月十

傳聞言をめぐるとにより本年は之
三飼育を見ざるも其良好なるは
敢なるを以て來年度よりは農北近
べんと一一般の飼育を見るに至る
に云ふこと大

●大田 大田町内に於ける秋
夏の物は来る八月一日前後の見
込みなるは約五百枚にして其他個
人の入付を以て約五百枚なるべし
今尚ほ大田町内に於ける種精製造
家は日見減つて十八人なるが
種頭は昔 樹敏第一號の三種に
し續數約一萬枚の見込みなり
(三八)

外々、實業力甚だ方ても例の約
手を遊ばしマナモ十四圓計り
の資料を購得したが此の外猶ほ
餘ある見込目下取組中である

●十八歳の大盡
但し泥棒小僧

平北龍川郡中面生れ當時牛所不
定金後引こは龍州縣民龍川郡市
長方に雇はれた親類を取り
に放たれた親類より逃げて来た
富三郎方に雇はれたが雇はれたた
日の翌日商家某女に入浴中現金
二圓を盗取たりを見捕り机の袖出し
都歸きたるを見捕り機の出出し

大阪府南久宝寺町三丁目 振替大坂二八二五番

京都明治町東栢橋電話二〇四四番

江頭眼科醫院

日曜祭日午後二時迄 江頭富雄

伊勢勘辨



仁川製作
 品名
 實價
 計販
 實價
 計販
 仁川製作
 品名
 實價
 計販
 實價
 計販

霧智記置の誌

今時に於ける大連正源は德海としたし、
 して大連正源に船を託置しが三
 日船期に坐落せるを始めて各都府の
 運送及び貨物運送のたきを以て一
 般に便す。誠實に就き大連汽船
 株式會社大坂商船汽波共同 汽
 波郵船大坂商船汽波共同 汽
 波郵船株式會社の各船線客は十六
 日迄マートホテルに會同協議する
 るべかりたり(欠)

兄弟問題調節

大連正源受取船後に乗る仲役故
 師を十日町引野にて聞く六連

鴨江造船進水式

鴨江造船株式會社に於て建造中なり
 の新造鐵骨文のスクラノ型艦一艘一
 隻五百噸は十三日午後二時の満

お伽講演會

◆十九日安東縣に於て◆
 本縣お伽講義館開山振光氏は十九
 日四時客來巡遊中に安東公會堂に於て
 午後七時の安東公會堂に於て
 演説意欲の目的を以て講演會を開
 けし。泊前二十日前中安東小學
 校に於て小學生諸君のため讀誦する
 豫定なれども尙ほ未だ是は二十日午
 後の濱州には廿一日及び廿二日
 の兩日市民及小學校兒童のため
 二回の講演をする事となり公重

日支大學生會館

街市支銀樓對面堂では第五回卒業
 式を去る十五日行したるが卒業生
 は日支人會計士十五名にして内
 日本入十人の數入りとなりし
 今日日の卒業生の入學當時の人員

二百五十圓を取らせ、翌日賑家
 出をなし新舊増進、悉して同地に
 於て姓不詳の二名、婦人を譲らひ
 家に送り置き、三歳迄養育せしめ
 奉養し、世にもまた家庭幸福の約句
 餘國を一役買附し給ふ。一方、傳
 珍が父は翌日に病歿し、大に悲
 切がり、金使ひに中絶せしむる
 へ出でたれば、年輩者は地へ手紙
 をなしたるを見、其處に遺書あり
 の手にて金幾種を取附たり云々

絶食し密行

◆六日間飲食を全せず◆
 釜屋長ちうぢは、昨行行
 當用仕舞に親類へ此は所蔵の内服
 へ渡航せんとして同往來よりし、若
 平凡の解酒時、酒醉の如く、厨

日焦を防ぐ秘訣は……

日本に
初めて
出来た

美乳

一滴！

何時もステッキミしたお化粧家、何ミ申しても
貴女は生地からお色が白くおつしやるのですから
——ミ御世辭ならぬ披露ミ對して、實は、ミ其夫人
の秘訣なるものを伺ひますミ、今日本に初めて出
來た美乳を常用してゐるお底、夏が來ても日焦を
免れ、生地から色の白いの美乳の中に含んだ白色素
の作用に外ならぬのです。ミ朝までオヤ〜ミ驚
いたやうな譯、崇樣一瓶をお試ミ遊はせ。

試験はタツタ一週間

取上香
朝鮮仁川
高杉醬油
高問

[illegible]

內科
小兒科
院長
副院長
永登浦分院院長
醫師
久保川
廣
次

京城旭町二丁目（電話九六二番）

小林醫院

信用生産額共「第」

「代表的最優品」

大坂北區田町
安住藥房

△平
凡打
破!!

長女光江係
氣之處養牛
不相叶十七日
午後六時死去

[illegible]


 An advertisement for 'Line of Incense' (線香). At the top, a pig is shown with the text '猪商標' (Pig Trademark) and '猪印' (Pig Seal). Below the pig, a woman is reclining, holding a small object. A large, stylized incense burner is on the left, with smoke rising from it. The text '線香' (Line of Incense) is written vertically on the right. The text '中元' (Chūgen) is written vertically on the far right. The text '暑中' (Shūchū) is written vertically on the far right. The text '御進物' (Goshinbutsu) is written vertically on the far right. The text 'には實利と趣好' (ni wa jitsuri to sūkō) is written vertically on the far right. The text 'を兼ねし最適品' (o kakane shi最適品) is written vertically on the far right. The text 'ひ及店藥の處る到' (hi oji ten yaku no uchi ru to) is written horizontally at the bottom. The text 'す賣販てに屋物荒' (su bai han te ni ya mono kusa) is written horizontally at the bottom.

生前學知諸彦
二謹告仕族
追而修六來九
年後四時自辛酉九月
丁卯歲陰曆二月念三日
亥刻訖

大正七年正月十七日

父高橋利藏公
成田國松
津部要次郎
津田榮太郎
生田永太郎
市岡一德
友代總人
代總親戚

悟道軒圖玉口

(可成時鐘) 二

ふて、覺悟をしう。こ木の松を
鹿が三度廻してバツバツと叩
く倒さるゝれがために打殺されま
す。の數知られず木郎之様を
「サア其方は誰か、よく聞い
て呉れる」熊澤殿此處は私
が出でましたから早く禪正を討
つて下さい。小心心得た」
婦し下中に語をして居るから一
驚いた。「サア小松屋が家原ノ活
をして居る。さて彼奴は問答し
あつたらしく三回は知りや油断し
て居る。然らずに打殺したは癡
金千萬兩ノ後叙を取付て了」。
三應言掛け取返せ。熊小僧な
らぬぞ。だ。熊澤ト思ふ小松園郎
兵衛とは世に無名陰の名。本名は
秋山鹿吉。家原ノ佐平藏。仕へた
秋山伴作といひは他の兄貴。縁
に繋がる弟が不孝郎。御承め初
め、一日禪正の家來たるには違
なきを探したものの詮論。もう
密なりや大願成就候。片斷片端か
も死人の血を染み與れ覺悟を

木を撥擲て大手を敲いて痛罵する。只一打切込んで来る。五太次の方、身を交して拳を以て打落し、突然腕捌んで由に立て。振振って投げて。起しも立て。飛躍り五太次の頸筋ムンズと掴つて片手捻りにアリヤアリヤワウマンと右左へ廻したし初めて五太次驚いた。五アー苦しい防がて呉れ々々。こい女奴。熊巫婆或やアがある。誰か助ける奴があるものか。サア背疑は生れ付いた背中を見た事はあるまいかと背中の方、首を捻向けて遠る。よく見たら五太次カを入れた。廻したら五太次アッ一聲叫び。ミ青ガ中の方を向いて了つた。ミ青が口白から。何故面白くないのか。ボキリミ青がけ五太次の首根切れて了つた。首を抜出して再び大木を抱取り取、グリーンランド國を駆けつけて捕獲する。

京城壽町壽座
電話五七八

新紙芝居 大坂行
 七月十一日 廿四回
 一、小島子九家、作力下、六
 二、花柳屋、大坂、山崎
 三、花柳屋、大坂、山崎
 四、花柳屋、大坂、山崎
 五、花柳屋、大坂、山崎
 六、花柳屋、大坂、山崎
 七、花柳屋、大坂、山崎
 八、花柳屋、大坂、山崎
 九、花柳屋、大坂、山崎
 十、花柳屋、大坂、山崎
 十一、花柳屋、大坂、山崎
 十二、花柳屋、大坂、山崎
 十三、花柳屋、大坂、山崎
 十四、花柳屋、大坂、山崎
 十五、花柳屋、大坂、山崎
 十六、花柳屋、大坂、山崎
 十七、花柳屋、大坂、山崎
 十八、花柳屋、大坂、山崎
 十九、花柳屋、大坂、山崎
 二十、花柳屋、大坂、山崎
 二十一、花柳屋、大坂、山崎
 二十二、花柳屋、大坂、山崎
 二十三、花柳屋、大坂、山崎
 二十四、花柳屋、大坂、山崎
 二十五、花柳屋、大坂、山崎
 二十六、花柳屋、大坂、山崎
 二十七、花柳屋、大坂、山崎
 二十八、花柳屋、大坂、山崎
 二十九、花柳屋、大坂、山崎
 三十、花柳屋、大坂、山崎
 三十一、花柳屋、大坂、山崎
 三十二、花柳屋、大坂、山崎
 三十三、花柳屋、大坂、山崎
 三十四、花柳屋、大坂、山崎
 三十五、花柳屋、大坂、山崎
 三十六、花柳屋、大坂、山崎
 三十七、花柳屋、大坂、山崎
 三十八、花柳屋、大坂、山崎
 三十九、花柳屋、大坂、山崎
 四十、花柳屋、大坂、山崎
 四十一、花柳屋、大坂、山崎
 四十二、花柳屋、大坂、山崎
 四十三、花柳屋、大坂、山崎
 四十四、花柳屋、大坂、山崎
 四十五、花柳屋、大坂、山崎
 四十六、花柳屋、大坂、山崎
 四十七、花柳屋、大坂、山崎
 四十八、花柳屋、大坂、山崎
 四十九、花柳屋、大坂、山崎
 五十、花柳屋、大坂、山崎
 五十一、花柳屋、大坂、山崎
 五十二、花柳屋、大坂、山崎
 五十三、花柳屋、大坂、山崎
 五十四、花柳屋、大坂、山崎
 五十五、花柳屋、大坂、山崎
 五十六、花柳屋、大坂、山崎
 五十七、花柳屋、大坂、山崎
 五十八、花柳屋、大坂、山崎
 五十九、花柳屋、大坂、山崎
 六十、花柳屋、大坂、山崎
 六十一、花柳屋、大坂、山崎
 六十二、花柳屋、大坂、山崎
 六十三、花柳屋、大坂、山崎
 六十四、花柳屋、大坂、山崎
 六十五、花柳屋、大坂、山崎
 六十六、花柳屋、大坂、山崎
 六十七、花柳屋、大坂、山崎
 六十八、花柳屋、大坂、山崎
 六十九、花柳屋、大坂、山崎
 七十、花柳屋、大坂、山崎
 七十一、花柳屋、大坂、山崎
 七十二、花柳屋、大坂、山崎
 七十三、花柳屋、大坂、山崎
 七十四、花柳屋、大坂、山崎
 七十五、花柳屋、大坂、山崎
 七十六、花柳屋、大坂、山崎
 七十七、花柳屋、大坂、山崎
 七十八、花柳屋、大坂、山崎
 七十九、花柳屋、大坂、山崎
 八十、花柳屋、大坂、山崎
 八十一、花柳屋、大坂、山崎
 八十二、花柳屋、大坂、山崎
 八十三、花柳屋、大坂、山崎
 八十四、花柳屋、大坂、山崎
 八十五、花柳屋、大坂、山崎
 八十六、花柳屋、大坂、山崎
 八十七、花柳屋、大坂、山崎
 八十八、花柳屋、大坂、山崎
 八十九、花柳屋、大坂、山崎
 九十、花柳屋、大坂、山崎
 九十一、花柳屋、大坂、山崎
 九十二、花柳屋、大坂、山崎
 九十三、花柳屋、大坂、山崎
 九十四、花柳屋、大坂、山崎
 九十五、花柳屋、大坂、山崎
 九十六、花柳屋、大坂、山崎
 九十七、花柳屋、大坂、山崎
 九十八、花柳屋、大坂、山崎
 九十九、花柳屋、大坂、山崎
 一百、花柳屋、大坂、山崎

● 津村兄弟商會
京城本町堂・電話一四七〇〇番

聞く我々も、この船に乗り、強正
 を助け、船を押して矢よりも早く
 沖へ向つて曹田へ来た。此時早
 く彼時近く小太郎岸邊へ来た
 小ヤア強正何處へ逃ける。可返
 當て七月八日より臨時特別行
 ○新派の男女
 天晴新編大井新編道井政俊
 益々萬邦の秘鑑 五六編 少
 三六編 少
 電話 三三六 黄金鐘

近時生牛は頗る高價にて殆んど額の高値を示し従つて屠殺數は

[illegible]

差引右五箇月間に於て二二二〇の減少を示せり尙ほ累年比較は

の如し。二〇四・一〇元、二〇四
二二・三八五、二二・三九
二四・一六五、二五・一四
二六・一〇四、二七・一〇
斯から結果を見れば、是れ實に牛の
高値なるに不完全なる結果を防止
し、獸畜衛生に留意したる結果なら
んとし、本邦の國産乳牛に牛一頭

日本清乳株式会社 支店代理店
電話八七三
大正

便鐵道會社大邸、琴湖間(十七哩)

[illegible]

中
皆吉▲一白 無茶な事有目跡事手持荷

は、子には行かざるゝと云ふし、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

券 けん 喜 ぞん 慈

第拾七回決算
 に付愛用
 者各位に
 謹告

一金貳萬壹千貳百拾八圓七拾六錢四厘
 但自大正六年正月滿壹ケ年間ライオン齒磨
 小袋入貳千壹百貳拾壹萬八千七百
 至同年拾貳月
 六拾四袋賣捌に付此慈善奉納金額
 内金八千〇八拾九圓六拾六錢六厘
 但同上年間ライオン齒磨慈善奉納金八千〇八拾九圓六拾六錢六厘引換金額
 差引金壹萬參千百貳拾九圓〇九錢八厘
 引換殘額
 ライオン齒磨衛生上最良無比の製品にして、愛用者各位の御趣向に協心、益々販路の擴張するに付、慈善奉納金額の増大好成績を収むるに至れる事は福に厚き御同情に因る次第と感懐極大候。然るに尙引換未了のもの甚多からず、斯くの如きは誠に店の方の幸志と成する儀に有之候哉。其引換期を今日迄延長し來り候儘最早來る八月廿五日迄にて御可申候間、大正六年十二月限りの慈善奉納望我御所持の御方は、此簡述に本支店に依て御引換を願はしく存じ候。若し此期に至りて猶引換未了のもの之低價に弊店は不得と之を破損に歸したるもの多量候し、其金額に對する處分方法は廣く愛用者各位の高意に任ぬ、諸君なる慈善奉納に接續致候間、是來八月廿五日迄に東京本店宛に御引換の光榮にあづかり、之に依つて第拾七回の決算報告を同様に、各位御趣向の萬分の一に酬ひむと存じ居候。敬具
 尙ほ近來家庭本位に調製致したるライオン齒磨大袋入及び特大袋の御需要著しく増加仕候にも拘らず、慈善奉納小袋入販賣額上記の大數を示し候は、全く愛用者各位の御同情に依る所以と雖も信じ、謹んで感謝の意を表し、幾重にも御禮奉申上候。

東京市本所區外手町
 小林富次郎商店
 支舖 大阪市東區傳勢町
 名古星市西區桑名町
 支那分行 漢口・上海

大正七年七月
 ライオン齒磨本舖

月あき一いふ不ばづづ上めしあがし！

暮夕一杓、
 家庭圓滿に
 夏瘦せず、
 益々丈夫で
 元氣!!
 赤



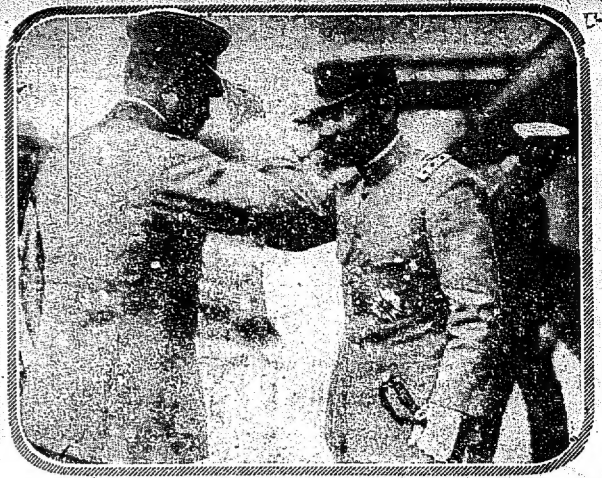
避暑に海水浴に行かれても



壹貳萬壹千貳百八拾八圓七角六分

金八千〇八拾九圓六拾六錢六厘

[illegible]



大將服を着て 離れる松川司令官

金の光り鴨緑の水

國境方面を視察して歸る

松川軍司令官が、鴨緑江を渡り、國境方面を視察して歸る。松川軍司令官は、鴨緑江を渡り、國境方面を視察して歸る。松川軍司令官は、鴨緑江を渡り、國境方面を視察して歸る。

河内工事

職工惨殺

河内工事の職工が、惨殺された。河内工事の職工が、惨殺された。河内工事の職工が、惨殺された。

西伯利亞の大鷲

日本の東宮殿下に献上

西伯利亞の大鷲が、日本の東宮殿下に献上された。西伯利亞の大鷲が、日本の東宮殿下に献上された。西伯利亞の大鷲が、日本の東宮殿下に献上された。

岩下十五年

獄中の求刑

岩下十五年の獄中の求刑。岩下十五年の獄中の求刑。岩下十五年の獄中の求刑。

横田アンナ夫人

銃殺を免れて歸る

横田アンナ夫人が、銃殺を免れて歸る。横田アンナ夫人が、銃殺を免れて歸る。横田アンナ夫人が、銃殺を免れて歸る。

大相撲

一泊一日

大相撲の試合結果。一泊一日の試合結果。大相撲の試合結果。一泊一日の試合結果。

九道一

社会資合屋植 及大

京日案内

京日案内

大坂屋敷

大坂屋敷

見事に治る

見事に治る

サスガは名薬

サスガは名薬

胃腸病と

胃腸病と

百毒

百毒

洗濯石鹼角形専門

洗濯石鹼角形専門

比較

比較

法な

法な

り

り

は

は

比

比

比較

比較

法な

法な

り

り

は

は

比

比

胃腸病と

胃腸病と

百毒

百毒

洗濯石鹼角形専門

洗濯石鹼角形専門

比較

比較

法な

法な

り

り

は

は

比

比

比較

比較

法な

法な

り

り

は

は

比

比

